

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.170

2014/01/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

森全体を見渡した保全活動の年に！



南部湿原際の枝打ち(14/01/07)

2013 年度も会員・森林キーパー・協力団体のおかげでほぼ毎日何かの保全作業を実施してきました。特に今年度後半は人工林(ヒノキ林)の保全作業に力を入れました。1987・1988 年に植林されたヒノキは、これまでに 1 回間伐・枝打ちがされて以降放置されてきました。本会もこれまでは二次林の整備に力を注いでいました。日々行き来する観察コース沿いのヒノキ林を放置することは先人の汗を無にすることにもなり、景観的にも鬱陶しさをぬぐい取りたいと実施に踏み切りました。作業は、間伐・間伐材の処理・枝打ち・食害防止テープ巻きと多岐にわたり広い植林地の全てに手を入れることは、本会の人力では数年を要すると思われませんが何とかやり遂げたいものです。



ヒノキ林の間伐・玉切り(13/12/08)



食害防止テープ巻き(13/12/25)

2014 年も生物多様性の保全を念頭に、二次林も植生の違い(ブナ林・アカマツ・コナラ林・アカガシ林等)を考慮しながら新たな保全作業にも取り組みたいものです。2011 年に伐採した天然更新試験地の植生は予想以上に順調に更新しており、食害防止を 2013 年並に行えば若々しい森林が蘇るという実感を手にすることが出来ました。またこれまで実施してきた希少種の増殖作業も順調に推移しており、もう 1 段階アップした活動にしてゆければとも考えられます。これらの活動は、森全体の生態系バランスを考えながら、個々の保全作業に取り組んでゆく必要があることは言をまちません。



天然更新試験地食害防止ネット撤去(13/12/21)



南部湿原食害防止ネット・トタン板撤去(13/12/21)

ササユリの食害防止ネットは、降雪前に撤去したが天然更新試験地・ミツガシワの南部湿原は積雪が無いと食害に遭うため降雪を待っていました。12月21日の保全作業日に降雪があることを願っていましたが、ドンピシャで前夜から降雪となり大勢の会員で短時間に撤去が完了しました。この雪が根雪になることを願っていましたが、その後融雪が進み天然更新地ではアカメガシワの2年生のみが枝の先端部を喰われるという状態になりました。撤去のタイミングがなかなか難しいものです。



積雪の天然更新地(13/12/30)



枝先を喰われたアカメガシワ(13/12/27)

ミヤマウメドキは、最近では2009年が豊作だったのですがそれ以降不作が続いていました。2013年は、2009年ほどの豊作ではないものの良作といったところでした。そのミヤマウメドキの実を貯蔵しておく動物が居ます。今年もその場所が見つかり何日が観察していると、実の数が減っていることが確認できました。そこで固定カメラを設置して撮影することにしました。程なく実を蓄えていたのはアカネズミ(日本の固有種)が訪れました。このネズミは一昨年は、北部湿原の資材置き場のブルーシートの中に居ましたし、守護岩の樹洞で子育てをしているものも撮影していたものでした。今回の撮影場所にはその後も何回も訪れ撮影に成功しています。



実を喰いに来たアカネズミ(13/12/26 21:04)

昨秋カヤネズミの巣にカメラを設置しました。データ

回収時の確認では見つからなかったのですが、データ



カヤネズミ(13/11/02 21:35)

を
詳
細
に
調
べ
た
と
こ
ろ
カ
ヤ
ネ
ズ
ミ
が
2
回
撮
影
出
来
て
い
ま
し
た
。
巣
は
以
前
か
ら
毎
年
確
認
出
来
て
い
ま
し
た
が
、
個
体
が
撮
影
出
来
た
の
は
今
回
が
初
め
て
の
こ
と
で
す
。



元旦「守護岩詣」(14/01/01)